

## 地域に視点をあてた事業展開 [高年]

# 地域内の全福祉関連事業所と地域住民との 地域共同事業「いちがさきふれあい交流会」

地域との連携や施設利用者への理解を深めることを目指して、地域の「地蔵盆」行事に参加した。これを機に、施設と地域住民との共同開催で納涼行事等を開催することとなった。今では、地域内の全事業所参加の行事に転換し、地域内の社会福祉施設と地域住民との交流の場となり、施設への理解も深まった。

滋賀県

社会福祉法人 **ゆたか会**

〒520-1605 滋賀県高島市今津町南新保87-15

TEL：0740-22-1601 FAX：0740-22-8039

### ◇法人設立年

昭和48年

### ◇法人実施事業

- ①経営施設（事業）数：4施設9事業
- ②経営施設・事業の種類：  
特別養護老人ホーム…2、ケアハウス…1、訪問介護…2、通所介護…2、障害者支援施設…1、障害者支援等事業…1

### ◇法人の理念・経営方針

- ・存在意義  
「隣人愛のもと誰もが安心して心ゆたかに暮らせることをめざして湖西の特性を活かし地域社会の期待に応える」
- ・こころざし  
「共に生き、共に喜び、共に育つ」
- ・経営姿勢  
「協力」「愛情」「清潔」
- ・行動規範  
「明るく」「楽しく」「嬉しく」

### ◇取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

清風荘、清湖園

#### 【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 90名  
障害者支援施設 施設入所支援 60名、生活介護 70名、短期入所生活介護 3名

### ◇活動内容

- 活動開始年  
昭和63年8月
- 活動の対象者  
地域の住民及び施設利用者並びに参加施設役職員等 約500名
- 活動の頻度・時間  
夏期の納涼祭：年1回、毎年8月第3土曜日の1日（準備から終了まで約12時間）  
※企画は、4月から毎月1回2時間程度の実行委員会を計5回開催

### ◇活動実施の背景、実施にいたった理由

昭和63年当時、障害者への社会的理解はまだ浅く、清湖園の利用者が外出していると、隣接する町営住宅の居住者から「邪魔になるから施設へ帰れ。」と言われるありさまであった。これがきっかけとなってノーマライゼーションを推進し、地域との連携や施設利用者への理解と認識を深めることを目的に、地域の「地蔵盆」行事に参加した。

これを皮切りに、夏季の納涼祭、秋の文化祭を当法人の施設と地域住民との共同開催で実施するようになった。これまでの開催回数は計58回を数えている。数年前までは、地域内の事業所は行事に招待していたが、平成20年からは地域内の全事業所参加の行事（「いちがさきふれあい交流会」）に転換した。初年度は初めての取り組みであり、各事業所もどう活動に取り組んでよいのか手探りであったが、いずれも少しずつ活動の幅を広げ、健康教室の開催や、さおり織り体験、パンやクッキーの販売など、取り組む内容が広がってきている。

### ◇実施内容

毎年、「いちがさきふれあい交流会」の開催に向けて、4月から8月までの月に1回、午後6時から約2時間程度の準備委員会を開催して事業内容の検討を行う。各事業所の意見を集約するとともに、参加への機運を高めることに努めている。地域の区長に実行委員長をお願いしているが、この交流会が途切れることなく継続して実施できているのは、歴代の区長の熱意に負うところが大きい。

地域内の全事業所と地域住民が共同参画して事業を実施し、平成21年度の参加者は550名であった。

〈21年度の内容（タイムスケジュール）〉

14：00～18：00 地蔵供養

- ・事業所職員による合同防災訓練
- ・模擬店、盆踊り会場等の設営
- ・各事業所を開放しての「さおり織り体験」
- ・パン、シフォンケーキ、クッキーの販売
- ・健康教室を開催

18:00～20:00 セレモニー

- ・バンド演奏
- ・地元中学生による創作ダンス
- ・模擬店の出店

20:00～21:00 盆踊り、花火



### ◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

参加する職員はゆかたや法被を着用して雰囲気盛り上げ、音響や照明にも工夫を凝らしイベントとしての内容も年々充実してきている。地域住民も、以前は施設行事への参加という意識であったが、共同開催になってからは自分達の行事という意識で参加するようになってきた。地元の野球クラブチームのボランティアも継続参加して支援していただけるようになった。

### ◇今後の展開

今後、地域内の市営住宅居住者の高齢化が想定されるので、安否確認や介護サービス利用相談等の高齢者への支援をしていきたい。また、エアコンが設置されていない住宅も散見され、本年のように全国的に熱中症で死亡者が出る事例があるので、夏季期間中の施設開放を行っていきたい。

来年には、施設の老朽化で移転改築する養護老人ホームがあり、地域内の事業所が減少することになる。交流会のあり方を見直して、新たな取り組みへ発展的に改組していきたい。

### ◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
模擬店食材費	320,000円	市ヶ崎区の負担金	95,000円
装飾等材料費	65,000円	清風荘の負担金	190,000円
資料等印刷費	15,000円	清湖園の負担金	105,000円
燃料費・花火等雑費	100,000円	高島市社協の負担金	20,000円
		藤波園の負担金	34,000円
		ドリームの負担金	26,000円
		今津病院の負担金	30,000円
<合計>	500,000円	<合計>	500,000円

- ・取り組みにかかわった職員数 110名  
(職種等：全職種＝施設長・相談員・介護職員・調理員・事務員・介助員・介護支援専門員)